

【事前質問へのご回答】

岩渕 美智子氏 (新しい女性 新しい小金井)

質問 1. 待機児童をいつまでに、どうやって解消しますか？

回答 1

待機児童の原因は、いうまでもなく保育所の定員不足ですから、保育所を増設するしか根本策はありません。しかし、現在の行政の策は、認可の基準を下げたり、認証保育所を名ばかりの認可保育所園に格上げする動きです。この方法であれば、数年で待機児童を解消することができます。

しかし、保育の質を確保するためには園庭付きの保育所を増設すべきと考えます。その必要条件のひとつは、施設を建設する敷地を確保することです。狭い小金井市域で敷地を確保することは難易度が高いので、国と交渉して、国有地（国家公務員住宅跡地等）を積極的に活用すべきです。また、無策でいると宅地開発やマンション建設地となってしまう生産緑地を、農家のご理解を頂いて活用することも推進して参ります。

質問 2. 認可と認証の保育料に大きな格差がある現状をどう思いますか？

回答 2

保育料の格差はあってはなりません。究極的には国の責任において、すべて無料化すべきと思います。しかし、その状況に至っていない現状では、認証保育所への助成が必要です。保育料の負担は所得に応じて徴収すべきです。現在の入所基準や所得階層を見直すことも必要と考えます。

質問 3. 病児・病後児保育、一時保育、障がい児保育など多様なニーズにどう対応しますか？

回答 3

(市の報告では、病児保育は市内に存在しません。病後児は、1箇所のみ)

病児・病後児は、当然医療機関との連携が必要です。市内医療機関と綿密な交渉をして、受け入れ枠を増やし、ニーズに応えます。少なくとも現状の、病後児のみの1カ所から市内4カ所に増設します。

一時保育は保育時間等やニーズの発生時期など、多様な要望があるので、民間の機動力を活用します。極論では、ニーズがあれば24時間体制ということも考慮しなければなりません。また、駅周辺において受け入れ体制がとれるよう、計画を進めます。

障がい児は、優先入所させるべきです。ノーマライゼーションの理念は幼児から必要と考えます。情操教育の面からも積極推進すべきです。当然、市の負担は増えてますが、果たすべき自治体としての責任を全うすべきです。